

注 意 報

農技セ第5519号
令和4年11月1日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和4年度農作物病害虫発生予察情報について

令和4年度農作物病害虫発生予察注意報第2号を發表したので送付します。

令和4年度病害虫発生予察注意報第2号

令和4年11月1日
徳 島 県

県北部地域のトマト、ミニトマトを対象に、10月5・6半旬に調査を行った結果、コナジラミ類の発生が平年に比べて多く、今後も増加が懸念されますので、注意報を發令します。

栽培現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：トマト、ミニトマト
病害虫名：コナジラミ類(主にタバココナジラミ)

1. 発生地域 県北部地域

2. 発生時期 11月上旬～

3. 発生程度 多(前年並、平年より多い)

4. 注意報發令の根拠

(1)10月25日、26日に行った巡回調査では、発生圃場率が100%、寄生葉率が22.3%と、平年(68.8%、5.6%)に比べて高く、過去10年と比較して最も高い(表1)。

(2)高松地方气象台が10月27日に發表した1か月予報では、気温、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温が平年に比べて高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

5. 防除法等

(1)施設内への侵入を防ぐため、開口部は防虫ネット等(目合い0.4mm以下)で覆い、外部からの侵入を防止する。

(2)増えすぎると防除が困難となるため、発生初期から防除を行う。

(3)花粉交配用昆虫等の有用生物を利用している場合は、農薬の影響日数に注意する。

(4)タバココナジラミは黄化葉巻病の原因であるウイルス(TYLCV)や黄化病の原因であるウイルス(ToCV)を媒介する。ウイルス病発病株は見つけ次第抜き取り、ハウス外に持ち出し適切に処分する。

(5)防除については、徳島県植物防疫指針(URL:<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/tokushima>)を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 トマト・ミニトマトにおけるコナジラミ類発生圃場率，寄生葉率の過去10年間の推移
(調査地：阿波市8カ所)

調査年度	2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	2015	2014	2013	2012	平年
発生圃場率(%)	100	100	50.0	87.5	90.0	60.0	50.0	55.6	55.6	88.9	50.0	68.8
寄生葉率(%)	22.3	19.9	2.3	7.3	7.8	6.8	4.4	0.9	1.3	3.9	1.5	5.6

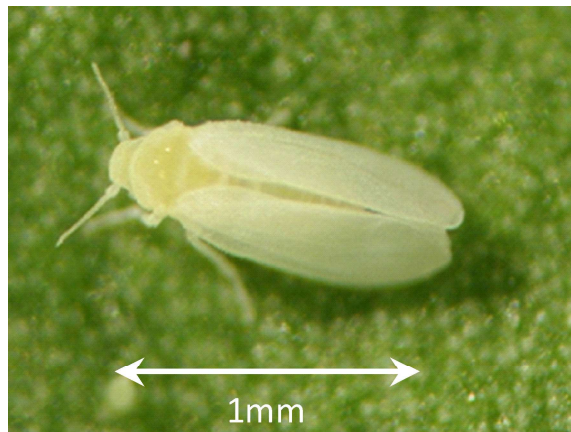


図1 タバココナジラミ成虫



図2 タバココナジラミ幼虫

表2 トマト・ミニトマトのコナジラミ類に使用できる主な農薬(令和4年11月1日現在)

農薬の名称	希釈倍数使用量	使用時期	使用方法	本剤使用回数	IRACコード
アクタラ顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内 但し、ミニトマトは2回以内	4A
アルバリン顆粒水溶剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
スタークル顆粒水溶剤	2000～3000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
ダントツ水溶剤	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
ベストガード水溶剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
モスピラン顆粒水溶剤	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
トランスフォームフロアブル	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	4C
アニキ乳剤	1000～2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	6
コロマイト乳剤	1500倍	収穫前日まで	散布	2回以内	
コルト顆粒水和剤	4000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	9B
チェス顆粒水和剤	5000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	
クリアザールフロアブル	2000～4000倍	収穫前日まで	散布	2回以内	23
ウララDF	2000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	29
ファインセーブフロアブル*	1000～2000倍 ミニトマトは1000倍	収穫前日まで	散布	3回以内	34
ボタニガードES	500～2000倍	発生初期	散布	-	天敵製剤
ボタニガード水和剤	10g/10a/日	発生前～発生初期	ダ外内投入	-	
ゴツツA	500～1000倍	発生初期	散布	-	